

中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会
令和7年度第5回山ノ内町分科会
議事録（要旨）

開催日・出席者等

開催日時 令和8年2月18日（金） 午後1時30分から2時30分

場 所 山ノ内町役場 401号会議室

出席者 委員：15名（敬称略・順不同）

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ・山ノ内町商工会 会長 | 田中 篤（協議会役員） |
| ・山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 | 山口 辰也（協議会委員） |
| ・（一財）山ノ内まちづくり観光局 専務理事 | 田村 清志（協議会委員） |
| ・長野電鉄株式会社 運輸課長 | 岡部 公平（協議会委員） |
| ・長電バス株式会社 乗合乗用部長 | 大石 真一（協議会委員） |
| ・北陸信越運輸局長野運輸支局 主席運輸企画専門官 | 山岸 康範（協議会員） |
| ・長野電鉄労働組合 副執行委員長 | 清滝 淳也（協議会委員） |
| ・中野市 企画財政課長 | 阿藤 博之（協議会事務局） |
| 代理出席 中野市 企画財政課 | 高橋 悠 |
| ・山ノ内町議会 総務産業常任委員長 | 山本 光俊 |
| ・山ノ内町議会 社会文教常任委員長 | 高田 佳久 |
| ・山ノ内町区長会 須賀川区長 | 布施谷 裕泉 |
| ・山ノ内町区長会 杓野組惣代 | 望月 福一 |
| ・山ノ内町民生児童委員協議会 会長 | 宮崎 のり子 |
| ・山ノ内中学校 PTA 会長 | 小湊 崇法 |
| ・山ノ内町 副町長 | 久保田 敦（協議会副会長） |

※欠席者 4名

事務局：4名

- | | |
|------------------|-------|
| ・山ノ内町未来創造課 | 堀米 貴秀 |
| ・山ノ内町未来創造課地域創造係長 | 樋口 淳一 |
| ・山ノ内町未来創造課地域創造係 | 宮崎 幸乃 |
| | 山崎 萌 |

傍聴者：4名

会議事項等

1 開 会 （事務局 堀米課長）

- ・本分科会は中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会規約第 21 条に基づき設置される、地域公共交通の実情について話し合うための分科会である旨説明
- ・公開による会議である旨の説明

2 あいさつ （進行：事務局 堀米課長）

久保田副会長よりあいさつ

分科会を開催したところ、大変ご多忙の中、ご参加いただき感謝申し上げます。

かねてからお知らせさせていただいており、また、年末には報道もされたが、将来にわたって持続可能な地域公共交通のあり方について、県、市町村、交通事業者等で構成される県の公共交通活性化協議会北信地域部会で検討しており、その中で、菅線については廃止する方向で検討が進められているところ。

町としては、利用者の状況、また、県内各地のバス事業者の皆様から、運転手不足という非常に切実な課題があるということを受けており、路線の見直しはどうしても避けられないと受け止めている。

一方で、行政として、沿線地域の住民の皆様のご利便性を可能な限り確保するために、交通事業者と協議等を通じて連携させていただきながら、コミュニティバス等の運行を中心に、様々な工夫をして代替交通の具体的な対策の検討を進めているところ。

また、2月25日に長野県公共交通活性化協議会北地域部会において菅線の廃止方針が正式に決定される予定。本日は、同部会における検討に反映するために、現状を共有し、皆様方からご意見をいただきながら、分科会としての意見をまとめさせていただきたい。

持続可能な公共交通の維持に向けて、町としてどのような対策を取っていくべきなのかも踏まえて、ご意見いただきたい。

3 会議事項（議長：久保田副会長）（説明：事務局）

(1) 菅線の廃止について

- ・資料1により説明
- ・以下質疑及び意見

【委員】

アンケートの実施について、小中学生ということだが、小中学生だけにとどまるのか、内容を詳しく教えてほしい。

【事務局】

通学で使う方がいるのかを把握するためのアンケートであり、実際には小中学生のお子さんがある保護者に向けて、使う見込みがあるかという内容のアンケートを行う予定。

【委員】

地域住民へのアンケートを取る考えはないか。

【事務局】

現時点では町民に広くアンケートを取る予定はない。ここに至るまでに、南部地区協議会と2回ほど懇談を持っており、昨年末報道される前に、町から地域の皆様に知らせるべきということで、一度南部地区協議会に説明させていただいた。

その中で、現状、乗車人員が少ないということを地域の皆様も認知されており、廃止はしようがないという認識ではあった。ただし、利用がゼロではないという状況を見るに、通学に使われている生徒がいるのではないかとということで、地域全体というよりは、小中学生やこれから使う子も含めて、保護者の皆様からご意見を伺いたいと考えている。

さらに、今後実証運行する中で、楽ちんバス又はチョイソコやまのうちを設定していけば、今の一般の利用者はカバーできると考えていることから、まずは定時定路線、朝夕の部分でどのくらいのニーズがあるのか知りたい。

【委員】

将来的に学校統合された際に、スクールバスという考え方も出てくるが、どのように捉えているか。

【事務局】

学校統合については、今後競合する部分ではないかと考える。現状の運転手不足を鑑みると、どちらもというのは当然効率的ではない。町としては、3年を1つの目途に、事業を更新していく形をとっており、事業の実施、検証、改良していくスタンスである。

学校統合が令和12年ということで、まだ先になるが、それまでの間は利用者の声を聞きながら、適宜弾力的に運用できればと考える。

【委員】

菅線の廃止については、ご承知のとおり、とにかく乗らない、運行できないというのが民間事業者の考え方で、元々廃止代替路線バスということで、少なくとも400万円、多くて600万円、平均で500万円ほど町から補助で入れていたはずである。

今回、実証運行も含めてかかる経費の試算について、いわゆる日本版ライドシェアとの考え方も含めて検討されたか。

【事務局】

町としては、現況、今あるコミュニティバスを中心に考えている。特に、先ほど申し上げたとおり、子どもたちの通学に使う定時定路線の部分の色合いが濃いため、ウーバーのような形ではなく、毎日同じ時間帯、同じルートを通るようなものを確保した上で、その後、予約制なども考えていける部分があれば考えていきたい。

【委員】

菅線の毎月の乗降者数や利用者の客層のデータをいただいて検証しているか。また、我々に提供されているか。

【事務局】

菅線については、運行事業者が年に1回、任意の日を1日用いて乗降調査している。

また、町分科会として、昨年度10月に乗降調査を行い、どの便に何人乗ったのかという調査を行い、そのデータを持って乗降状態を把握している。

また、委員へは提供していない。

【委員】

現在行っている自家用有償運送とライドシェアについても、経費等を比較しながら検証していただき、比較対象があった中でこの形をとっているということを提示してもらえれば、既存の交通空白地域の住民に対しても説明しやすい。

比較対象など内部的に調べられるものは後追いでよいのでやっていただき、今後ライドシェアを運行していく可能性もあるので、その前段でタクシー事業者の協力を得ながら調査をしてもらい、将来を見据えた動きをとっていただけるとありがたい。

【事務局】

その都度状況を勘案しながら、様々なアイテムを検証し、皆様のご協力いただきながら進めてまいりたい。それぞれ何かご意見あればぜひ頂戴したい。

行政として今まであった地域公共交通がなくなる中で、段階的に公共交通のあり方を考えていく中では、まずもって最初は町として責任をもって、安全性を確保しながら、今ある楽ちんバス・チョイソコやまのうちのうちを運行し、乗降調査やアンケートを実施しながら、費用対効果や利便性、安全性を加味しながら、この地域にとってどのような交通形態が望ましいのか検討したい。

・その他意見なし

【事務局】

菅線の廃止については分科会としても了承いただいたということで県の部会に臨ませていただく。町としても苦渋の選択であり、引き続き地域の皆様とどうやって地域の足を確保していくかご意見を頂戴しながら検討を進めていきたい。

4 その他（進行：事務局 堀米課長）

【委員】

現在の楽ちんバスの運行時間を見たときに、長野市に通っている高校生は6時46分の電車に乗っており、楽ちんバスを使おうとするともっと早い時間でなければ間に合わない。今後運行時間も考えていただくと高校生が利用していただけるのではないかな。

小中学生へのアンケートも大事だが、今通っている高校生に対し、この時間にバスがあれば使うかといった調査があってもよいのではないかな。

【事務局】

菅線が走っている状況を最低限確保するところからスタートしているが、これから町として、高校生や若い世代が暮らしていきやすい町にするためにどういったことが必要なのかというところも大事な意見であり、10月までにどういった形がいいのか、一緒に考えさせていただきたい。

【委員】

運転手の充足状況については、何年か前に比べればだいぶ採用は進んでいると思われるが、定員にはまだまだ満たしていないという状況。

そういった中で、朝の早い時間帯のバスが欲しいといった場合、運転手の1日の労働時間が限られるため、朝早い時間帯はバスを出すのが、帰りのバスについては確保できないという形になってしまう。その辺は働き方改革もあるので、ご理解いただきたい。

また、バスというのは大量のお客様を運ぶ輸送手段であり、菅線については残念ながら1桁台の人員の輸送となっており、もう何年も前から町に話をさせていただき、今回、この会議で承認をいただいたところ。

また、運賃について、楽ちんバスは100円となっているが、バスは大量輸送ができるので、比較的安い運賃で輸送ができる。楽ちんバスは定員がバスよりも非常に少なく、運賃については100円ではなくてもうちょっと上げて運行された方がよいし、各自治体にも同じようなことをお話しさせていただいているため、その辺も協議いただければと思う。

【事務局】

長電バス様に関しましては、現在楽ちんバスの運転手は1日1人体制でやっていただいております、西北部ルートから南部ルートの広い区間を全部1人で見ていただくと、どうしても今まで拡充できなかったが、今回を機に、なんとか2、3人体制を確保していきたいと考えており、長電バス様の方でもかなり前向きに考えていただいている。

ただ、少なくとも2人体制を確保しない限り、我々も今ご提案差し上げていることが、限りなく可能性が低くなってしまいうこともあり、運転手の確保ということでこれまでも町の広報を通じて募集を図ってきたが、なかなか実現していない。

町としても継続して行っていくとともに、長電バス様も従来のバス運転手の確保を楽ちんバスの方にも回していただくことを前向きに考えていただいております、継続的に皆様と考えていきたい。

また、運賃については、現場のご意見として非常に貴重なご意見だと思っておりますので、持続可能な公共交通の形として参考にさせていただきたい。

【委員】

今の人員体制がかなりネックになっているということは承知しているが、今後拡充していただきたいし、町も含めてぜひ協力体制を敷いて、現状に対する幅広い対応をお願いしたい。

【事務局】

本日お集まりの皆様や、また沿線地域のご利用になる方々と一緒に考えるべき話だと思うので、先ほどのアンケートの幅を広げるとか、そういったところも含めて、皆様と一緒に考えていきたい。

【委員】

先日担当している方から、チョイソコを利用したいということで担当者へ問合せしたところ、丁寧に説明してもらったが、理解できず結局もういいとなったようだ。私が説明できればよかったが、また勉強する機会をいただければと思う。

【事務局】

電話だけでご理解いただけない場合にはお邪魔することもしているが、来てほしくないという方もいるので、逆に民生児童委員の皆様と懇談を持たせていただけるのであれば、利用方法等を委員の皆様にご案内させていただいて、担当されている方に説明いただくなど一緒に協

力できればと思う。

【委員】

民生委員自体も仕組みを十分に理解することが難しいため、月1回の定例会の日に担当者に来ていただいて、まずは私たち委員が十分理解するような機会をいただければと思う。

【事務局】

町として広報を出してみたり、LINEをやってみたり、電話で問合せが来たら対応しているが、現場のご意見をいただけるとありがたい。特に民生委員は高齢者との橋渡しなので、ぜひ、定例会の折りに担当が伺って、まずはご説明させていただきたい。

菅線の廃止についても楽ちんバスで補完していくということであれば、より多くの方に知っていただく必要があり、使っていただいた上で使いづらいという声があれば、しっかり改善していかないといけないので、ぜひそういった機会を設けさせていただきたい。

【委員】

本日の話し合いで菅線については廃止ということで合意されたが、代替案にかかる協議や決定するための会議は開かれるのか。

本日晒された代替案は暫定的なものかと思うが、それが終わったらそのまま恒久化した決定事項となるのか、変更案があった場合にはもう一度協議するのか。

【事務局】

まずは楽ちんバスとチョイソコで実証運行を行うということで本日はご提案申し上げる。その後、実証運行した中で、地域のニーズが足りたということであればそのまま本格運行とし、全く乗らないバス停は効率化してなくすというところを含めて検討したい。いずれにしても、実証運行の結果は一度皆様に報告した上で本格運行に入ってまいりたい。

【委員】

地域福祉の推進に当たって交通はかなり重要な部分である。特に外国人との共生を進めるに当たっては交通にかなり課題がある。外国人住民全員と日本人1,000人無作為抽出でアンケート調査を行うが、アンケートの中には交通の便についても聞く予定。多文化共生といっても外国人のためというより、日本人のためという繋がりがあり、外国人も住みやすく、さらに日本人も住みやすくという考えでいる。

外国人に交通にかかる課題をアンケートから拾い上げて、例えば時刻表を多言語化するなど、周知も含めて今後やっていきたい。アンケートで拾い上げた課題は分科会でも共有し、町に提案していきたい。

【事務局】

町内には大体4～5パーセント程度海外の方が住民としており、中には日本語も通じる方もいれば、通じない方もいて、それが地域の皆様の摩擦になっているという話がある。お互いのことを知ってうまくやっていけるように、社協と町で連携しながら、まず手始めのアンケートを行う。交通の部分で非常に不便されているというところもあるが、同じ町民というところで、町で何ができるのか、一緒に考えていければと思う。

【委員】

10月1日から代替手段の実証運行されるということで、まだ確定ではないが、令和7年度の補正予算を活用した補助金について、近々、要綱が定まって要望調査を行うと聞いている。

交通空白を解消するものや、共同化・協業化として複数の自治体や交通事業者を絡めた取り組みに関する実証運行を支援するような内容なので、具体的に補助要綱が固まったところで、活用できるようであれば確認いただきたい。

【事務局】

町の財政にかかる国の支援についても引き続きお願いしたい。

これから実証運行の経過や結果等を皆様に報告しながら、町の地域の足を確保するため、ご協力よろしくをお願いしたい。

・その他意見なし

5 閉 会 （事務局 堀米課長）